

整理番号 74610397

発送番号 009414

発送日 平成15年 1月21日 1 / 3

特許出願の理由

特許出願の番号	平成11年 特許願 第296002号
起案日	平成15年 1月10日
特許庁審査官	河原 英雄 3014 2X00
特許出願人代理人	西村 征生 様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理由

<理由1>

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

本願請求項5、6、8において、「散乱補助膜」という用語が使用されているが、「散乱補助膜」とはどのような膜を意味するのかが判然としない（明細書中には「散乱補助膜」の定義はなく、「散乱補助膜」の材料の具体例も全く記載されていない。）。

よって、本願請求項5、6、8に係る発明は明確でない。

<理由2>

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

1. 請求項1、9について

引用文献：1—4

備考：

引用文献1-3のそれぞれには、反射型液晶表示装置において、液晶駆動素子形成基板に対向する基板の液晶側に光散乱手段を設けることが記載されている。

一方、液晶駆動素子形成基板にカラーフィルタを形成することは、本願出願前に周知の技術であり（例：引用文献4）、引用文献1-3に記載された発明のそれぞれに、該周知の技術を適用することは、当業者にとって容易である。

2. 請求項2, 3, 10, 11について

引用文献：1-4

備考：

引用文献1には、光散乱手段として、対向基板の液晶側表面に凹凸部を形成すること及び該凹凸部を覆う平坦化膜を形成することが記載されている。

また、対向基板の表面に凹凸部を形成する方法として、サンドブラスト法やフォトエッチング法は本願出願前に周知である。

3. 請求項4について

引用文献：1-4

備考：

引用文献2, 3には、光散乱手段として、対向基板となる透明絶縁基板の液晶側表面に外部から凹凸状絶縁膜を形成することが記載されている。

4. 請求項7について

引用文献：1-4

備考：

引用文献1に記載された発明において、光散乱手段として、基板表面に凹凸部を設ける（粗面化）代わりに、凹凸絶縁膜を外部から形成する（例：引用文献2, 3）ことによって、請求項7に係る発明とすることは、当業者にとって容易である。

引用文献等一覧

1. 特開平8-338993号公報
2. 特開平6-324358号公報
3. 特開平4-243226号公報
4. 特開平11-84415号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC第7版 G02F 1/1335 505
1/1335 520
1/1368

・先行技術文献

特開平10-96918号公報
特開平7-13146号公報
特開平11-6999号公報
特開平9-138427号公報
特開平7-56152号公報
特開平8-334787号公報
特開平8-146402号公報

なお、この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

<この拒絶理由に関する問い合わせについては、以下に連絡して下さい。>

連絡先 特許審査第一部 光デバイス（光制御） 藤田都志行

TEL: 03-3501-6961 (直通) 内線3293~3295

FAX: 03-3580-6902